

福島県須賀川市。収穫を間近に控えた田んぼの景色。

## 種をまく 前を向く

震災から11年を経てなお、  
戻らないものがある現実。

それでも、種をまくことができれば、  
前を向いていける。

東北の生産者が、今抱えている思いとは――。





1 若きリーダー伊藤大輔さん(左)と、仲間の橋本直弘さん。  
2 高い品質を誇る同会の米。  
3 稲田稲作研究会のメンバーの皆さん。

※本品は、ご注文いただく年の秋に収穫されるお米を収穫前にご注文いただき、11月末から翌年9月まで定期的にお届けするお米です。お届け頻度は12回コースと6回コースから選べます。※次回取り扱いが5月中旬を予定しております。

# 待っていてくれる 人のため 臆病なほどに 安心を追い求める

稲田稲作研究会(ジェイラップ)

福島県須賀川市の稲田稲作研究会と、大地を守る会が築き上げた「備蓄米」はその年に収穫する米をあらかじめ予約するシステム。待っていている人がいるからこそ、作り続けられる――。

種をまき続け  
次の楽しさ見つけた

福島県が2012年から行ってきた、コメの全量全袋検査。放射性セシウムの値を計測するものです。2015年以降、基準値超過がなかったことから、20年産からは一部の地域を除いて全袋検査を終了しました。ひと区切りがついたようにも見えますが、ジェイラップの伊藤大輔社長は、11年前から特段何が変わったわけではないと話します。収穫前にも収穫後にも、同社では独自に測定を重ねます。「臆病なほど」に不検出の確認を徹底するのは、お客様の安心を守るため。  
それでも一度離れた消費者は、震災前の半分も戻っていません。

際立つおいしさ  
昨秋に収穫したお米を  
天日乾燥&もみ貯蔵



「安全安心を、これ以上いっただい  
う伝えていけばいいの？」  
稲田稲作研究会設立当初からのメ  
ンバーの一人・関根政一さんはそう  
苦しい胸の内を明かします。  
93年の大冷害による米不足がきつ  
かのできた、同会の米の優先予約  
システムですが、種をまき続けるこ  
とができるのは、待っていてくれる  
人がいるからこそ。今、その喜びは  
前に進む大きな力となっています。

# ブルームきゅうり リスク負って 作り続けるのは 「おいしいから」

福島わかば会

3月から11月まできゅうりを出荷する福島わかば会。  
同会事務局の自社農場を率いる  
佐々木寛之さんに伺いました。

ブルームきゅうりは  
みずみずしさが違う

表面がブルームという成分で白く覆われたブルームきゅうり。水分の蒸発を防ぐためにきゅうり自ら生成する成分ですが、白い粉が農薬のように見えると言われ、一般の市場ではほとんど出回っていません。  
この品種を作り続けているのが福島わかば会。同会の事務局の佐々木寛之さんはきゅうりを作り始めて20年弱ですが、「まだまだ奥が深い」と言います。例えば湿度管理もその一つ。湿度を上げればきゅうりはよく育ちますが、病気にもなります。農薬を使えば病気を防ぐのは簡単なことですが、極力使わずに技術でカバーするのが腕の見せ所です。

「ハードルが高いことやってるなあ  
と自分でも思いますよ。でもおいしい  
んだから、仕方ない」

2011年当時、震災後の半年程度は放射能の数値が高く出た品目もあつたと言いますが、後に基準値以下に戻りました。あれから11年。「自分の気持ちとしては、もうすっかり元に戻った感じですが」と佐々木さんは言います。ブルームきゅうりを買ってくれる消費者が支えになっています。

シャッキリみずみずしいきゅうり  
きゅうり300g

1079  
300g 413円(税込446円)

◎福島わかば会(福島県)  
※異なる産地のものが届く場合があります。



1 畑に足しげく通い、きゅうりの状態を確認するのは福島わかば会の鈴木正幸さん。  
2 皮が柔らかいのが特徴のブルームきゅうり。話を伺った佐々木さんのオススメの食べ方はタタキだそう。  
3 鈴木さんとお連れ合いの栄子さん。



# 畑を立て直し 夫婦二人で 新たなスタート

いわき夏井ファーム

福島県いわき市から、春菊、スナップえんどう、  
そら豆、メークインなど、年間を通じて出荷。  
夫婦二人三脚で育てた野菜たちです。

次の栽培のこと考えて  
気を紛らわせた

2011年2月に有機JAS認証  
を取得したいわき夏井ファーム。  
「明日からやっとならべを貼って出  
荷できる」

まさにその日に、震災が発生しま  
した。自宅は全壊し、津波はハウス  
まで押し寄せました。

「もう畑はできないんじゃないか」  
と落ち込み、塩水で枯れ果てたハウ  
スの片付けをしながらも、「種を撒  
かなきゃ」と次の栽培のことを考え  
ることで気を紛らわしていた、と二  
人は振り返ります。

いわき市は当時の風向きから放射  
能の影響はほとんどありませんで  
したが、原発事故の影響で仲間は散り  
散りに。震災前は福祉作業所として  
障がいを持つ人たちと共に畑を運営  
していましたが、その後も大きな地  
震が複数あったため作業所は閉鎖し、  
畑は夫婦だけで続けることに。

「コロナ前は『大地を守る東京集  
会』にも通わせてもらいました。会  
員さんたちの熱心さ、安全なもの  
を求めて勉強している様子に驚きま  
した」と美知さん。

「気候の変化や病気の発生など今まで  
やってきたことが通用しないことも  
多いけど、農薬を使わないで育てる  
のは楽しいですよ。私たちが日々勉  
強です」

1 小林勝弥さんと妻の美知さん。「主人  
は作る人、私はマネジメント」と美知さん。  
2 収穫期のオクラはごつごつと太く緑  
色が鮮やか。

筋を取って  
塩ゆでがおすすです  
スナップえんどう  
100G



※夏井ファームの取り扱いは4月中旬  
～5月上旬を予定しております。



# 違和感を大切に 「抗う」先に 理想があるから

(株)高橋徳治商店

石巻の3工場が全壊し、79人の従業員を解雇。  
もう一度、ここで「本当に」必要とされる会社になろう。  
1905年創業の老舗練り物会社の挑戦は続きます。

悩み、迷いながら作る  
食べる人へのメッセージ

震災後から3年2ヶ月、携帯電話  
に書き綴ってきた日記があるという  
高橋英雄社長。今年、それをまと  
めた冊子を発行します。

タイトルは「抗う」(あらがう)。

人的被害が一番多かった石巻。家  
族を亡くした従業員もいます。命を  
絶とうと考えたこともあります。そ  
れでも、抗うことで今ここになん  
か立てている。「抗い続けるところ  
なりたいたいという理想が見える」と高  
橋社長は言います。

再開した工場です。再建の思いで作  
ったおとうふ揚げ1000キロを苦  
渋の判断で廃棄したこともあります。

「この10年、毎日試食と迷いは続  
く。こだわりじゃない。執念です」

迷うことが自分たちの「抗い」。  
そんなメッセージを込めれば、食べ  
る人にはきつとわかってもらえる。  
そう信じています。

2018年に作った野菜加工場で  
は、引きこもりだった若者たちにも  
働いてもらっています。

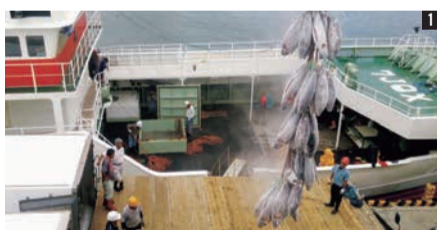
「就労支援ではなく、彼らから学ん  
でいます。彼らを作ったのはこの社  
会で、そのうちの一人が私」

生産性は求めない。上から目線  
はない向き合い方が社員の間にも広  
がりました。

震災であぶり出されたのは社会的  
弱者の存在。コロナ禍でも今、同様  
のことが起きています。

魚のすり身と豆腐で作った  
ふわっとしたやわらかさ  
おとうふ揚げ

1455 円  
175g (5コ)  
388円 (税込419円)  
⑦大豆  
⑧高橋徳治商店  
(宮城県東松島市)



# 気仙沼のプライド 持続可能な漁業で マグロを守る

川印村田漁業

自社でマグロの延縄船を持ち、  
メバチ・キハダなどを漁獲している村田漁業。  
気仙沼で水揚げし、選別、加工を行なっています。

船は3隻から1隻に  
コロナで船員も不足

「20、30年前は海にたくさん魚がい  
た」と振り返るのは同社の佐々木工  
場長。気候変動による水温変化や、  
未成魚まで獲ってしまう巻き網漁の  
増加で年々魚が獲れなくなり、燃料  
の高騰も重なって漁業を取り巻く状  
況が厳しくなっていた時に、追い討  
ちをかけるように震災が発生しまし  
た。

同社では本社社屋と鮮魚工場、製  
氷工場、冷凍工場の3工場が被害に  
遭いました。当時3隻稼働していた  
船は無事でしたが、売上が戻らず2  
隻は廃船し今は1隻だけが漁に出て  
います。

さらに暗い影を落としたのがコロ  
ナ禍です。出漁に必要な乗組員が集  
まらなくなりました。

苦境は続きますが、ここにしか  
おいしいものを届けたい、と  
いう思いが変わりはありません。独  
自の選定基準を設け、その基準をク  
リアしたものを、超低温冷凍で  
管理し販売します。

昨年豊漁だったカツオ、気仙沼を  
代表するメカジキ、マカジキも、自  
信を持っておすすめできる身質。

「魚が減っている時だからこそ、年  
間通じて同じものばかり食べるので  
なく、その季節季節に取れる魚をぜ  
ひ味わって欲しいです」(佐々木さん)

程よい脂のりの中トロをお刺身で  
天然めばちまぐろ  
中トロ(刺身用)

1190 円  
130g 1500円 (税込1620円)  
限定600/生食可/漁場:太平洋  
⑥着日含め10日保証  
⑥村田漁業  
(宮城県気仙沼市)



## 福島に活気と活力を生み出すことを目指して 10年目に新しい一歩を踏み出した「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」

### 大地を守る会が活動に参加していることを知らない方への紹介

ふくしまオーガニックコットンプロジェクトは、東日本大震災の風評被害や津波による塩害が原因で農業を断念する農家を支えるために、2012年に生まれたプロジェクトです。  
食用ではなく、塩害にも強い綿を有機栽培で育て、収穫されるコ

ットン製品化・販売する一連の取り組みで、福島から新しい農業と繊維産業を作り出したいという想いに賛同し、大地を守る会は、2015年から援農ツアーに参加、イベントでの商品販売などを通じて本プロジェクトへの支援を継続しています。

### 直近の活動報告と今後

昨年、10月、新型コロナウイルスが落ち着いたタイミングで収穫ツアーに参加してきました。約2年ぶりに現地を訪れることができたのですが、変わらない笑顔で迎えていただくことができました。  
2022年はふくしまオーガニッ

クコットンプロジェクトが発足してから10年目という大きな節目の年となります。  
福島で収穫されたコットンが地場産業として根付き、地域に活気と活力を生み出すことができるように今後も支援を続けていきます。



詳しくは「オーガニックコットンプロジェクト」サイトへ  
<https://www.oisixradaichi.co.jp/sustainability/withord/iwaki/>



- 1 ふわふわな綿。触ってみたいですね
- 2 平時のツアーはCO2排出ゼロのエコな天ぷら油リサイクルバス(天ぷらバス)で移動
- 3 保温と防草効果のための黒いビニールシート(マルチ)を敷く作業をしている様子
- 4 コットンの種。わたの中にいるため、種の周りにも綿毛がついているのが特徴です。



## ネグロス島のバナナ90%以上が倒壊 フィリピン台風被災バナナ 復興支援のお願い

昨年12月16日、非常に強い台風22号がフィリピンを直撃し、中部ビサヤ地域に大きな被害をもたらしました。この地域にはバランゴンバナナの主産地であるネグロス島がありますが、バランゴンバナナの生産者のバナナの90%以上が倒壊しました。さらにボホール島、ミンダナオ島北部でもそれぞれ1万本以上のバランゴンバナナが倒されました。被害は、住

居、サトウキビ、水田、果樹、家畜にも及んでいます。幸いバナナ生産者で亡くなられた方はいませんでした。そこでバナナ販売元(株)ATJの呼びかけに応じて、バナナの生産復興支援を行うことにしました。バナナの株や肥料などを購入するため、DAFDAF基金を通して支援を行います。3月末まで支援を募ります。皆さんのご支援をお待ちしています。



倒壊したバナナの様子。生産量が復旧するまでには半年以上かかる見込みです。2月1日時点のDAFDAF基金残金¥194,670を緊急支援として送金済みです。

DAFDAF基金  
4801 1口 500円  
※「DAFDAF基金」への募金となります。

## アートで地域支援する「大地の芸術祭」

国際芸術祭「大地の芸術祭」。舞台となる新潟県越後妻有地域は、長年農業を通して日本を支えてきた集落です。当社は「大地の芸術祭」とのコラボレーションを通して、過疎高齢化の課題に向き合う、この地域を支援する取り組みを行っています。

114号の北陸フェアにて、大地を守る会とのコラボレーション企画を予定。

地元のお母さんたちがつくる郷土料理を、プロのシェフとともに完成させた「大地のおかず」。

越後妻有地域に点在するアート作品を感じさせる風呂敷をご紹介します。



- 1 越後妻有地域にある作品の1つ、草間彌生「花咲ける妻有」撮影：中村脩
- 2 越後妻有で暮らすお母さんたちが受け継がれてきた郷土の味を再現した「大地のおかず」2品。



詳しくはこちら  
<https://www.oisixradaichi.co.jp/echigo-tsumari-collabo/?from=newsd>

『NEWS大地を守る』はWEBでもご覧いただけます。イベントの詳細・お申込みもWEBからどうぞ。

大地を守る会

検索



●『NEWS大地を守る』に掲載している取り組みは、主に大地を守る会の宅配サービスの年会費・利用料で運営されています。

お問い合わせ

オイシックス・ラ・大地 ソーシャルコミュニケーション部  
TEL●050-5306-8513  
E-mail●ord\_social@oisixradaichi.co.jp

注意事項

当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報を、お申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行者に業務委託する場合があります。この場合、個

人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイト上の個人情報保護方針をご確認ください。  
<https://takuhai.daichi-m.co.jp/Information/8>

※イベントについてWEBへのアクセスが不可能な場合は、ソーシャルコミュニケーション部へお電話いただきご確認・お申込みください。



発行 オイシックス・ラ・大地株式会社  
東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー5階  
TEL 050-5306-8513